

ピアホームだより

2019. 3.10

31年度事業計画を考える

アドボケート会の定年70歳を迎え、妻と2人3脚で行って来た事業もその継承の具体的な行程を作っていく段階に入ってきました。

2年後を目標に、まずは、次の理事会で定年制の見直しの了解を得、就労継続B型事業所リトルハウスの人的な運営体制を確実なものにして行くための方策を講じて行きたいと思っています。

一方、共同生活援助ピアホームは出来るところまで継続して行く考えです。但し、ピアホームⅡの老朽化に対応し、建て替えを行い50年は建て替えを考えなくても良いようにして行きたいと考えています。

グループホームは極めて特殊な勤務形態で、中々成り手がなくて悩ましいところです。我がグループホームだけでなく、そ

の担い手は定年後の方が圧倒的に多い現状です。当ホームは板橋区1のホームとして難題にも取り組んできましたので、その火を消さないよう引き継いでいきたいと考えています。

都加算制度大きく変わり31年1月より実施

年度当初から、検討されていた都加算の見直しは、今年1月から開始されました。基本単価を下げ、加算で点数を取る仕組みです。およそ2割ぐらい抑えられ、必須の加算として医療連携加算が設けられました。当所はこの届出をしましたが、医療（主治医）との連携は、中々日常的にとれるものではありません。

これまでグループホーム入居者は一定の自立をしていて区分をつけずに比較的簡単な手続きでの入居で、報酬も一定額担保する形でした。こちらが高齢化重度化の時代の中で、重度の利用者が増えて来ていることで区分をつけて行く時代になって来たようです。

ということで、予め、準備をして対処をした結果、次年度の収入は若干下がる程度

に収まるようです。

抗精神病薬の遅発性ジストニアについて

抗精神病薬には、様々な副作用がありますが、困った副作用に遅発性のジストニアがあります。

我が娘も斜頸という辛い副作用で苦しみました。今はボトックスで大きく改善しました。

当所の利用者の方にも、同じく首が傾く方、目が吊り上がる方、また、身体が大きく傾いている方などこの辛い副作用の方がみられます。決して珍しくない副作用と言えるのではないのでしょうか？

大変辛いものなので整形などでマッサージをしたりして凌いでいる方も多いのでは？

副作用の少ないお薬への変更が勧められていますが、遅発性のものは不可逆性で中々改善が見込まれません。ボトックスは取り扱いが面倒で極限られた施設でしか治療できないという課題もあります。何とか普及して頂きたいと思います。

今月の予定

<3月23日>理事会

